

〔科目名〕 経済演習Ⅰ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 河野秀孝						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 本演習では、具体的な題材に基づき、経済学の観点から、少しでも <u>統一的・論理的</u> 分析ができるようになることと、 <u>経済学という学問の魅力</u> を満喫してもらえかと思います。一見すれば、正しいまともな議論と思われるものでも、必ずしも説得力が充分であるとは限りません。毎日の経済現象を題材とした <u>体系的論理的思考の訓練</u> であると考えてください。							
〔演習内容〕 皆さんに <u>経済学的思考の面白さ</u> を知ってもらうために、著名な学者の <u>考え方を紹介</u> いたします。同じテーマでも <u>個人の思想や視点の相違による思考の多様性が存在する</u> ことを理解してください。 ところで、 <u>皆さんはどの経済学者の考え方により共感を持てるでしょうか。それはどうしてなのでしょう</u> か。このようなことを自問自答し、ゼミでの討論を重ねながら、皆さんの <u>思考力を伸ばすお手伝い</u> が出来ればと思います。							
〔科目の到達目標〕 今日の世界では、経済に関する諸問題は、日々マスコミのニュースにもなっています。この事は、私たちの日常生活までも、経済的側面から多大なる影響を受けていることを示しているのです。本演習は、日々の私たちの生活への影響を、身近な事例をテーマとして考えながら、皆さんを取り巻く <u>経済の諸問題を統一的に理解・分析することの楽しさ</u> を味わってもらうとともに、 <u>今後履修される専門領域の紹介</u> になればと思います							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔前提条件〕 ミクロ経済学は必修が望ましい。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ゼミでの討論への参加状況と、レポートによる評価。							
〔教科書等〕 ＊配布資料 ＊参考文献：ポール・ミルグロムとジョン・ロバーツ（訳 奥野正寛 他）「組織の経済学」NTT 出版、1997 年。							
〔実務経歴〕 製造業							
授業スケジュール							
時期	テーマと内容						
9月下旬から 10月中旬	革新性テコに米国復権、ジャグディシュ・バクワティ 著 発展の裏に政府の役割、ジョセフ・スティグリッツ 著 民主主義、世界的に興隆 アマルティア・セン 著 発展と破壊、時代を画す、ジョン・K・ガルブレイス 著						

10月下旬 から 11月中旬	国民経済へ政府は行動を、 ジョン・K・ガルブレイス 著 終焉を迎えた「主義」の概念、 宇沢弘文 著 WTO 交渉： テーマは伝統分野優先で、 ジャグディシュ・バクワティ 著 為替政策を問う： 日米、円安定へ基準相場を、 ロナルド・マッキノン 著
11月下旬 から 12月下旬	新しい経済： 波乱呼ぶ情報革命、 アルビン&ハイディ・トフラー 著 新しい経済： 「第三の波」へ移行急激、 アルビン&ハイディ・トフラー 著 相互依存の時代： 未来への責任語ろう、 ジョン・K・ガルブレイス 著 変動米国株と世界景気： バブル後の調整続く、 ジョン・K・ガルブレイス 著
1月中旬 から 1月下旬	選択の自由 I、 ミルトン・フリードマン 著 選択の自由 II、 ミルトン・フリードマン 著 プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 マックス・ウェーバー 著 雇用、利子、お金の一般理論 ジョン・メイナード・ケインズ 著
	※行数は適宜、加減してください。ただし全体で2ページ以内に収まるようにしてください。